

南アフリカ共和国

Republic of South Africa

	2011年	2012年	2013年
①人口：5,298万人（2013年央）			
②面積：121万9,090km ²			
③1人当たりGDP：6,621米ドル （2013年）			
④実質GDP成長率（%）	3.6	2.5	1.9
⑤消費者物価上昇率（%）	5.0	5.6	5.7
⑥失業率（%）	23.8	24.5	24.1
⑦貿易収支（100万ランド）	47,085	△39,578	△73,584
⑧経常収支（100万ランド）	△68,090	△164,548	△197,179
⑨外貨準備高（100万米ドル、 期末値）	42,595	43,996	44,864
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル、期末値）	118,180	142,345	136,621
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ランド、期中平均）	7.26	8.21	9.66

〔注〕⑥：第4四半期。⑩：2013年は9月末時点
〔出所〕①④～⑥：南アフリカ共和国統計局、②：南アフリカ共和国政府、③⑨⑩：IMF、⑦⑧⑩：南アフリカ共和国準備銀行

2013年の南アフリカ共和国（以下、南ア）経済は、総固定資本形成や輸出が堅調な伸びを示したものの、民間消費支出や政府消費支出の伸びが鈍化し、実質GDP成長率は1.9%にとどまった。貿易では、輸出入とも5年連続で中国が首位を維持した。輸出では、鉄鉱石やマンガンを中心とする鉱物性生産品が伸びた。輸入では一般機械・電気機械が大幅に増加し、貿易収支（通関ベース）は3年連続の赤字となった。対内直接投資では、医療・薬品や消費財・サービスなどの分野で大型投資がみられた。日本企業では、自動車分野で販売体制強化の動きがあったほか、火力発電、物流などの分野への進出がみられた。

■ 経済成長率は前年を下回る1.9%に

2013年の実質GDP成長率は1.9%で、2012年の2.5%から低下した。民間最終消費支出が前年比2.6%増と前年の3.5%増を下回ったことや、政府最終消費支出の伸びが2012年の4.0%増から2.4%増へと鈍化したことが影響した。民間最終消費支出のうち耐久消費財は2012年の11.1%増から7.9%増、非耐久消費財も2012年の2.7%増から2.2%増へと伸びが鈍化した。一方、国内総固定資本形成は2012年の4.4%増から4.7%増となった。民間部門では食品や飲料、化学品、自動車部品など製造業の投資が拡大し、5.5%増となった。一方、公営企業部門や政府部門では、電力や交通インフラ、教育や医療分野などに重点的に投資が行われたが、それぞれ3.1%増、3.5%増と伸びが鈍化した。

表1 南アフリカ共和国の需要項目別実質GDP成長率

	2012年	2013年	2013年				2014年
			Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
実質GDP成長率	2.5	1.9	0.8	3.2	0.7	3.8	△0.6
民間最終消費支出	3.5	2.6	2.4	2.5	2.1	2.0	1.8
政府最終消費支出	4.0	2.4	2.8	1.7	1.5	2.0	1.4
国内総固定資本形成	4.4	4.7	3.8	5.6	7.0	3.1	2.6
財貨・サービスの輸出	0.4	4.2	5.9	9.0	16.7	3.9	5.4
財貨・サービスの輸入	6.0	4.7	21.5	7.3	7.0	△18.9	16.3

〔注〕四半期の伸び率は前期比。

〔出所〕南ア準備銀行

産業別にみると、農業ではサトウキビの生産や家畜生産が好調だったこともあり、2.3%増と2012年の伸び（2.0%増）を上回った。また、鉱業も、ダイヤモンドなどの増産により2012年の3.6%減から3.1%増へとプラス成長に戻った。製造業は自動車産業の労働争議の影響で、一時、生産の縮小や停止に追い込まれたため、2012年の2.1%増から0.8%増へと鈍化した。

■ 先進国向け輸出は回復、周辺国向けも大幅増加

南ア歳入庁によると2013年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比12.9%増の8,118億7,933万ランド、輸入が16.3%増の9,680億9,308万ランドだった。貿易収支の赤字幅は前年の1,134億6,900万ランドから、2013年は1,562億1,400万ランドに拡大し、3年連続の赤字となった。

輸出を品目別にみると、全体の約4分の1を占める鉱物性生産品は前年比14.5%増の2,129億2,800万ランドだった。そのうち鉄鉱石（30.4%増）、マンガン（54.2%増）が大幅増だったほか、石炭（2.5%増）も増加した。数量ベースでは、鉄鉱石（18.4%増）、マンガン（25.4%増）は増加したものの、石炭

表2 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)			
	2012年		2013年		2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	56,241	72,086	8.9	28.2	54,872	58,985	6.1	7.5
鉱物性生産品	185,930	212,928	26.2	14.5	191,834	219,497	22.7	14.4
化学品	46,939	45,798	5.6	△2.4	74,894	87,245	9.0	16.5
貴石・貴金属等	159,863	173,064	21.3	8.3	7,290	5,956	0.6	△18.3
卑金属および同製品	91,654	104,923	12.9	14.5	38,929	48,854	5.0	25.5
一般機械・電気機械	63,870	71,175	8.8	11.4	199,249	242,896	25.1	21.9
輸送機器	67,000	76,153	9.4	13.7	88,391	96,870	10.0	9.6
合計 (その他含む)	719,031	811,879	100.0	12.9	832,500	968,093	100.0	16.3

[出所] 南ア歳入庁

表3 南アフリカ共和国の主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2012年		2013年			2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	83,981	115,650	14.3	37.7	中国	120,063	154,472	16.0	28.7
米国	63,102	66,995	8.3	6.2	ドイツ	83,930	103,189	10.7	23.0
日本	50,607	53,751	6.6	6.2	サウジアラビア	64,561	77,444	8.0	20.0
ドイツ	37,338	41,592	5.1	11.4	米国	61,055	62,883	6.5	3.0
英国	27,467	31,849	3.9	16.0	インド	37,703	51,863	5.4	37.6
オランダ	23,280	29,572	3.6	27.0	日本	37,831	39,307	4.1	3.9
インド	30,130	28,961	3.6	△3.9	ナイジェリア	30,547	34,890	3.6	14.2
モザンビーク	19,418	27,356	3.4	40.9	英国	28,764	32,117	3.3	11.7
ザンビア	21,815	26,279	3.2	20.5	タイ	22,138	26,540	2.7	19.9
スイス	15,118	23,468	2.9	55.2	イタリア	21,071	25,980	2.7	23.3
ジンバブエ	19,875	23,187	2.9	16.7	フランス	20,302	22,320	2.3	9.9
合計 (その他含む)	719,031	811,879	100.0	12.9	合計 (その他含む)	832,500	968,093	100.0	16.3

[注] 再輸出を含む総額ベース。

[出所] 南ア歳入庁

(1.6%減)は減少した。

貴石・貴金属等(構成比21.3%)は8.3%増だった。自動車排ガス浄化触媒などとして使用されるプラチナは数量ベースで75.9%減だったが、金額ベースでは24.9%増加した。2013年のプラチナ国際価格の平均値はドル建てで前年比4.3%下落した。一方、ランド安の影響でランド建てでは12.3%上昇した。南アでは2014年に入って主要プラチナ鉱山で5カ月に及ぶストが発生しており、今後の価格動向にも影響をもたらす見込みだ。金は数量ベースでは9.5%減、金額では10.1%減、ダイヤモンドは数量が31.0%減、金額が11.1%増だった。

卑金属および同製品(12.9%)は14.5%増だった。ステンレスの主原料となるフェロクロムは数量が6.5%増、金額が24.6%増、フェロマンガンは数量が16.0%増、金額が34.5%増だった。

輸送機器(構成比9.4%、13.7%増)は、構成比の半分近くを占める乗用車(7.1%増)や、貨物自動車(13.3%増)は増加したが、自動車部品は1.6%減だった。南ア自動車工業会(NAAMSA)によると、2013年の新車乗用車輸出台数は前年比0.2%増の15万1,893台だった。主要輸出国別にみると米国(6万649台、前年比8.2%減)や

ドイツ(3万4,686台、3.0%減)、フランス(1,516台、7.6%減)など欧米向けの輸出は減少したが、日本(2万3,342台、42.8%増)やオーストラリア(1万1,464台、21.8%増)向けの輸出は回復した。

国・地域別輸出では、中国が前年比37.7%増、1,156億5,000万ランドと5年連続で首位を維持し、構成比も14.3%に拡大した(前年は11.7%)。輸出の約7割を占める鉄鉱石(42.8%増)やクロム(43.9%増)が増えたほか、フェロアロイ(79.9%増)やプラチナ(90.2%増)などが伸びた。

輸出相手国2位の米国は前年比6.2%増となった。乗用車を中心とする輸送機器(4.5%減)、鉄鋼(3.0%減)は減少したものの、プラチナ、ダイヤモンドなどの貴石・貴金属等(20.0%増)、高炉水砕スラグなどの鉱石(10.4%増)が伸びた。

3位の日本は前年比6.2%増で、輸出の約半分を占める貴石・貴金属等(18.9%増)のほか、鉱石(9.0%増)や乗用車を中心とする輸送機器(70.4%増)などが増加した。

4位のドイツ、5位の英国を含むEU27向けは17.2%増の1,677億7,800万ランドで、プラチナを中心とする貴石・

貴金属等（12.5%増）、鉄鉱石を中心とする鉱物性生産品（26.8%増）や石炭を中心とする鉱物性燃料（23.9%増）、遠心分離機などの一般機械（15.8%増）が軒並み伸びた。EU27の中で最大のドイツ向けは、11.4%増だった。鉄鋼が13.9%減だったものの、主力輸出品の乗用車（17.1%増）、プラチナを中心とする貴石・貴金属等（20.4%増）、排ガス用の清浄機やエンジンなどの一般機械（12.1%増）が増加した。英国向けは、輸出の4割近くを占める貴石・貴金属等（1.4%増）、食用果実・ナッツ（構成比12.6%、32.7%増）、輸送機器（8.7%、65.3%増）などが伸び、全体では16.0%増となった。

輸出相手国7位のインド向けは前年比3.9%減で、前年の5位から後退した。主力の石炭を中心とする鉱物性燃料（3.0%減）や鉄鋼（18.2%減）、鉱石（33.6%減）が減少した。

サブサハラ・アフリカ（以下、サブサハラ）向けは前年比15.8%増となった。モザンビークは40.9%増と大幅に増加し、域内最大の輸出相手国になった。石油などの鉱物性燃料（56.1%増）や輸送機器（54.3%増）などが増加した。ザンビアは20.5%増、ジンバブエは16.7%増とそれぞれ増加した。以下、コンゴ民主共和国（8.7%増）、アンゴラ（3.4%増）、ナイジェリア（21.7%増）、ケニア（32.4%増）の順だった。

■中国からの輸入が5年連続で首位

輸入を品目別にみると、一般機械・電気機械（構成比25.1%、前年比21.9%増）では、携帯電話などの電話機（30.7%増）、整流機器（43.5%増）、発電機（4.5倍）などが増加した。鉱物性生産品（22.7%、14.4%増）のうち、原油は数量ベースでは1.2%減少したが、ランドの下落や原油価格の高騰で金額は10.1%増加した。輸送機器（10.0%、9.6%増）では約6割を占める乗用車（24.7%増）や自動車部品（15.7%増）は増加したが、貨物自動車は11.0%減となった。2013年の南アの国内新車販売台数は前年比3.2%増の65万745台と2010年以降4年連続で増加した。乗用車のうち3割強を占める排気量1500~3000ccクラス（ガソリンエンジン）が15.2%増となったほか、排気量1000~1500ccクラス（同）の小型車は47.5%の大幅増となった。乗用車の輸入を国別でみるとドイツ（32.8%増）、インド（61.8%増）、英国（8.3%増）からの輸入は伸びたが、韓国は前年比10.0%減となった。日本は7.7%増となった。

輸入を国・地域別にみると、5年連続首位の中国（28.7%増）をはじめ、主要相手国からの輸入は軒並み増加した。中国からは、携帯電話などの電話機（85.4%増）、太陽光発電などで使用される光電性半導体デバイスを含む半導

体製品（11.8倍）などが増加した結果、電気機器（69.2%増）が大幅に増加した。

2位のドイツ（23.0%増）、8位の英国（11.7%増）を含むEU27では前年比18.3%増の2,827億9,045万ランドとなった。主要輸入品目の一般機械（14.6%増）、輸送機器（28.8%増）などが増加した。ドイツからは主要品目の乗用車（32.8%増）、自動車部品（20.2%増）、貨物自動車（49.4%増）が増加した。

3位のサウジアラビアは輸入の約9割を占める原油が数量は15.5%増、金額は25.9%増とそれぞれ増加した。なお、2013年の原油輸入割合はサウジアラビア（構成比50.5%）、ナイジェリア（24.3%）、アンゴラ（13.2%）、ガーナ（4.2%）となった。近年まで、南アにとってイランは原油の主要な輸入相手先だったが、米国が国防授權法（2011年12月成立）に基づき、実質的に諸外国にイランとの貿易を制限するよう求めた影響で、南アの原油主要輸入国からイランは外れた（前年は全体の7.6%がイラン）。

4位の米国はトラックやブルドーザー部品（57.7%増）、変速機（27.8%増）など一般機械の増加により前年比3.0%増となった。

6位の日本（3.9%増）はスイッチや自動遮断機などの電子回路機器（25.2%減）や貨物自動車（18.0%減）などが減少したが、印刷機（24.5%）を中心とする一般機械が伸びた。

■SADC、COMESA、EACによる自由貿易地域設立に向けた協議が進行中

南アは、南部アフリカ関税同盟（SACU）、南部アフリカ開発共同体（SADC）、南アEU貿易開発協力協定（TDCA）、欧州自由貿易連合（EFTA）・SACU自由貿易協定などを締結している。2011年にSADC、東南部アフリカ共同市場（COMESA）、東アフリカ共同体（EAC）の3機構26カ国が自由貿易地域の設立に向けた協議を開始した。自由貿易地域の創設は2段階に分けて進められる構想で、第1段階では関税撤廃、原産地規則、紛争解決、税関手続きの簡素化、非関税障壁、ビジネス関連の人の移動が対象となる。また第2段階ではサービス、競争政策、知的財産権が対象となる。現在は第1段階として、関税撤廃の原産地規則、税関手続きの簡素化などの協議が進行している。

■医療・薬品や消費財・サービス分野で大型投資

南ア準備銀行によると、2013年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は前年比2.1倍の790億

表4 南アフリカ共和国の対内・対外直接投資額の推移
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位：100万ランド)

	2011年	2012年	2013年
対内直接投資額	30,808	37,428	79,055
対外直接投資額	△1,865	24,528	54,260

〔出所〕南ア準備銀行「四季報」

5,500万ランドとなった。投資案件をみると、鉱業分野では、香港資本の中国の鉱山会社チャイナ・アフリカン・プレシヤス・メタルズが南アのオーロラ・エンパワメント・システムズが所有していたオークニー金鉱山を1億5,000万ランドで買収したとの報道がみられた(2013年3月)。

医療・薬品分野では、インドの製薬会社シプラが2013年2月に、南アのシプラ・メドプロの買収提案を行った(最大45億ランド)。シプラは、今後数年間に毎年約14%の成長が見込まれる南アのジェネリック医薬品市場に対応するため、今回の買収提案に踏み切った。

消費財・サービス分野では、パナマのドス・ピーノスが2013年1月、SABミラーの子会社セルベセリア・ナショナル・SAから牛乳およびジュースの販売権取得に合意(8,600万ドル)したと発表した。英国の投資会社アクティスは2013年8月、トランズアクション・キャピタル傘下でATMやクレジットカードなどの決済サービスを提供するペイコープを買収したと発表した(9億3,700万

ランド)。米国のホテル経営マリOTT・インターナショナルは2014年4月、南アのホテル大手プロテア・ホスピタリティー・グループ(PHG)を完全に買収(最大で20億2,000万ランド)したと発表した。本買収により、マリOTT・インターナショナルは中東・アフリカ地域で160以上のホテルと2万3,000室を超える部屋を有することとなり、アフリカ最大のホテル会社となる。

一方、南ア企業による2013年の対外直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は、前年比2.2倍の542億6,000万ランドだった。投資案件をみると、医療・薬品分野では、製薬大手アスペングループが2013年10月、米国メルクからオランダ市場における医薬品有効成分(API)製造ビジネス権および関連の施設を取得したと発表した(100億ランド)。

消費財では飲料メーカー大手SABミラーと香港の華潤集団の合弁会社である華潤雪花ビールが2013年2月、中国のビール市場でのシェア拡大のために金威啤酒集団を買収したと発表した(8億6,400万ドル)。

鉱業分野ではゴールド・フィールズが2013年8月に、カナダの大手鉱山会社パリック・ゴールド・コーポレーションが保有するオーストラリア西部の金鉱山イルガム・サウス・アセット(グラニースミス、ローラーズ、ダルロットの3鉱山)の権益を3億ドルで買収したと発表した。

表5 南アフリカ共和国の主な対内直接投資案件

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
医療・薬品	シプラ	インド	2013年2月	最大45億ランド	成長を見込む南アのジェネリック医薬品市場に対応するため、南アの製薬会社シプラ・メドプロの買収提案を行った。
電力	三井物産	日本	2013年6月	約1,000億円	独立系発電事業に参入するため、英国の投資子会社を通じ南アの発電事業会社2社への出資を行った。
消費財・サービス	アクティス	英国	2013年8月	9億3,700万ランド	トランズアクション・キャピタル傘下で決済サービスを提供するペイコープを買収した。
自動車	トヨタ自動車	日本	2014年2月	10億ランド	設備投資を行い、新型「カローラ」の生産を開始した。
消費財・サービス	マリOTT・インターナショナル	米国	2014年4月	最大20億2,000万ランド	南アのホテル大手プロテア・ホスピタリティー・グループを買収した。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表6 南アフリカ共和国の主な対外直接投資案件

業種	企業名	投資国・地域	時期	投資額	概要
消費財	華潤雪花ビール(SABミラーと華潤集団の合弁会社)	中国	2013年2月	8億6,400万ドル	中国のビール市場でのシェア拡大のため、金威啤酒集団を買収した。
金融サービス	サンラム	インド	2013年2月	10億ランド	商用車向けの自動車保険を販売するインドのシュリラム・トランスポート・ファイナンスの株式3.7%を取得した。
鉱業	ゴールド・フィールズ	カナダ	2013年8月	3億ドル	カナダのパリック・ゴールド・コーポレーション保有の金鉱山イルガム・サウス・アセットの権益を買収した。
医療・薬品	アスペングループ	米国	2013年10月	100億ランド	米国メルクからオランダ市場における医薬品有効成分製造ビジネス権および関連施設を取得した。
通信	ボーダコム	タンザニア	2013年11月	24億6,000万ランド	米国の投資会社のカバルリー・ホールディングスが有するボーダコム・タンザニアの株式17.2%を取得し、ボーダコム・タンザニアの株式を82.2%保有することとなった。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表7 日本の対南アフリカ共和国主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年		2013年			2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
化学品	109	82	2.3	△25.2	動植物生産品・食料品類	200	398	5.9	98.8
鉄鋼・同製品	156	176	5.1	13.0	鉱石、スラグおよび灰	1,297	1,382	20.4	6.6
一般機械	1,073	852	24.5	△20.6	鉄鉱	980	1,098	16.2	12.1
車両用ガソリンエンジン (1000cc超)	44	24	0.7	△46.4	マンガン鉱・鉄マンガン鉱 (含む精鉱)	163	185	2.7	13.7
車両用ディーゼルエンジン	442	361	10.4	△18.5	木材、チップ	255	213	3.1	△16.2
電気機械	243	168	4.8	△30.8	貴石・貴金属等	2,807	2,887	42.6	2.9
輸送機器	2,014	1,724	49.5	△14.4	鉄鋼・同製品	492	392	5.8	△20.3
乗用車	577	548	15.7	△5.0	フェロクロム (炭素含有量4%超)	383	300	4.4	△21.6
貨物自動車	681	528	15.2	△22.5	アルミニウム・同製品	290	277	4.1	△4.2
合計 (その他含む)	4,079	3,482	100.0	△14.7	輸送機器	424	648	9.6	53.0
					合計 (その他含む)	6,434	6,779	100.0	5.4

[出所] 財務省「貿易統計 (通関ベース)」から作成

そのほか、金融サービスを提供するサンラムは2013年2月、商用車向けの自動車保険を販売するインドのシュリラム・トランスポート・ファイナンスの株式3.7%を取得した (10億ランド)。また携帯電話事業会社のボーダコムは、2013年11月、米国の投資会社のカブルリー・ホールディングスが有するボーダコム・タンザニアの株式17.2%を取得し (24億6,000万ランド)、ボーダコム・タンザニアの株式を82.2%保有することとなった。

■自動車分野で販売体制強化の動き

日本の「貿易統計 (通関ベース)」をドル換算すると、2013年の日本の南アへの輸出は前年比14.7%減の34億8,180万ドル、輸入は5.4%増の67億7,912万ドルだった。

日本から南アへの輸出をみると、全体の約半分を占める輸送機器は14.4%減だった。うち乗用車 (5.0%減)、貨物自動車 (22.5%減) は減少した。一般機械は、車両用ガソリンエンジン (1000cc超、46.4%減)、車両用ディーゼルエンジン (18.5%減) が減少し、一般機械全体では20.6%減だった。

南アからの輸入をみると、全体の約4割を占める貴石・貴金属等が2.9%増となった。また輸入の約2割を占める鉱石、スラグおよび灰は、鉄鉱 (12.1%増)、マンガン鉱・鉄マンガン鉱 (13.7%増) と増加し、鉱石、スラグおよび灰全体では6.6%増だった。輸送機器のうちの乗用車は、排気量1000~1500ccクラス (ガソリンエンジン) が25.3%減となったが、輸入乗用車の約4割を占める排気量1500~3000ccクラス (ガソリンエンジン、41.0%増) と排気量1500~2500ccクラス (ディーゼルエンジン、9.8倍) が伸び、輸送機器全体では53.0%増と大幅に増加した。

日本の財務省統計によると、2013年の南アへの対外直

接投資額 (国際収支ベース、ネット、フロー) は196億円だった。主な投資案件をみると、自動車分野での販売体制強化や独立系発電 (IPP) 事業への参入、ビジネス拠点設立の動きがみられた。トヨタ自動車は2014年2月に新型「カロラ」の生産を開始した (10億ランドの設備投資)。マツダは南アにおける販売統括会社のマツダサザンアフリカを2013年7月に設立し、2014年7月に営業を開始すると発表した。いすゞ自動車は、2013年10月にいすゞトラックサウスアフリカへの出資比率を50%から70%に引き上げると発表した。

三井物産は2013年6月、英国の投資子会社を通じ南アの発電事業会社2社への出資を行い、火力の大型IPP事業に参画した (総事業費約1,000億円)。

みずほ銀行は2013年12月、ヨハネスブルクにロンドン支店の出張所を開設し、南アを含むサブサハラでの事業体制を整備・強化すると発表した。損害保険ジャパンは、サブサハラの情報収集とサービス体制拡充のため、2014年4月にヨハネスブルクに駐在員事務所を開設した。

郵船ロジスティクスは、既存ビジネスのサポート強化や市場調査などを進めるため、2013年10月にヨハネスブルクに駐在員事務所を開設した。阪急阪神エクスプレスはサービス拡大のため、2014年4月にヨハネスブルクに駐在員事務所を開設した。

そのほか、アシックスは2014年1月に、販売会社アシックスサウスアフリカを設立し、南アおよび近隣諸国での営業活動の拡大や南アでのブランド力強化を目指す。前川製作所は2014年3月、同社の省エネ製品を南ア市場に売り込むためケープタウンに現地法人を設立した。JX日鉱日石エネルギーは2014年4月、さらなる事業展開のため、ヨハネスブルクに駐在員事務所を設立した。